

ABIC 国際社会貢献センター

Information Letter

No. 51 2018年3月

非政府機関への協力	サウジアラビアでの人材育成事業……………	2
自治体・中小企業支援	福島県産の米と桃を輸出する……………	3
	地方創生事業の一端を担うことの喜び……………	4
教育	定住外国人に日本語教え、「心の債務」減らし……………	5
	東洋大学国際学部グローバル・イノベーション学科講座……………	6
	2020年オリンピック・パラリンピックを迎える小学生……………	7
	9年後の戸惑い……………	8
留学生支援	留学生支援活動から日本語教師養成講座へ 交流館の活動に心が通う連携を！…	9
	東京国際交流館での活動……………	10
その他	香港大学・香港科技大学の日本トップ企業視察ツアー帯同……………	11
事務局だより	ABIC関西地区会員懇親会を開催……………	10
	会員の種類……………	12
	法人・個人正会員／賛助会員一覧、活動会員数……………	12
	賛助会員入会のお祝い……………	12

特定非営利活動法人 国際社会貢献センター (ABIC)
Action for a Better International Community

<http://www.abic.or.jp>

〒105-6123 東京都港区浜松町2-4-1
世界貿易センタービル23階
Tel : 03-3435-5973 Fax : 03-3435-5970
e-mail : mail@abic.or.jp

(関西デスク) 〒541-0053 大阪市中央区本町4-4-24
住友生命本町第2ビル9階
Tel & Fax : 06-6226-7955
e-mail : kansai-desk@abic.or.jp

非政府機関への協力

サウジアラビアでの人材育成事業

こまつ まさかず
小松 正和 (元丸紅)

「先生、質問があります。募集している訓練生の国籍はサウジアラビア人のみですか」。SEHAI (Saudi Electronics & Home Appliances Institute : 注1) の紹介、勧誘を兼ねて2017年3月にリヤド市内のある高校を訪問した説明会の質問コーナーでの場面である。私は生徒全員がサウジ人であると思っていたので奇異な印象は受けたものの「サウジ人のみです」と答えた。

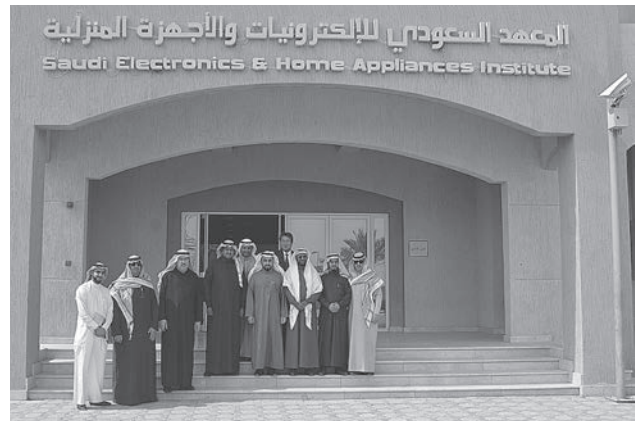
ABICから2016年2月にSEHAIシニアアドバイザー募集の案内があり、首尾よく採用され2016年6月から1年余りリヤドに駐在した。SEHAIは2009年9月に開校した日サ政府間の協同事業として高卒学生を中心とし26歳までのサウジ人を対象にした人材育成機関(2年制)であり、経済産業省資源エネルギー庁が支援を行っている人材育成団体である。名の示す通り、家電・エレクトロニクスを中心とした技術訓練を実施している。この種のサウジでの日本関係の団体にはSJAHI / HIPF (注2) の2校もあるがSEHAIが最も新しく、地元の知名度はまだ低いため、生徒数増が一つの大きなテーマになっていたが、2017年から解禁となった地元高校への直接勧誘を実施し、同年3月には都合3校を訪問した。

冒頭の私の疑問は質問した生徒がイエメンからの難民者であったことで解消されたが、サウジでは公立学校の15%程度がイエメン・シリア等からの難民者に開放され、全て無料で受け入れを行っている事実には少なからず驚きを禁じ得なかった。

SEHAIは就職保証制技術訓練校で生徒は入学と同時に地元協力企業への就職が決定し、授業料他をサウジ政府機関と地元協力企業から助成を得ることができる。遠方出身者には寄宿舎も完備している。初年度は英語・数学、2年度は各コース別の専門技術の修得のための授業を行っており、日本からは日本工学院八王子専門学校から2人の先生方が駐在し、技術インストラクター他を指導している。私の職務はいわば何でも屋であるが、日本側の学校運営他の助言をマネジメント側に提示することで本事業を円滑に進めることにある。

サウジと日本の習慣・文化の違い、イスラム暦により毎年約11日間暦が繰り上がるため、宗教関係の休日(約1週間のラマダン明け休暇、約1週間の巡礼明け休暇)が近年は毎年8月の夏休みと微妙な位置関係となり授業計画にも大きな影響を与え、カリキュラム作成に苦慮していた。

サウジは脱石油化の一環として人材育成に多大な国家予



SEHAI前での学校関係者他との集合写真(後列右が筆者)

算(約25%)を拠出しており、日本もエネルギーの安定確保のため、この政策に従来より協力し大きな評価を得ており、2016年10月には初めて世耕経済産業大臣がSEHAIを訪問、視察された。サウジのみならず湾岸6カ国は20歳以下の人口比率が50%以上と高く、若年層の就職対策として企業誘致、人材育成事業には多大の関心を持っている。

最近のサウジ政治事情は種々の難問が累積しているが、若年層の人材育成はどのような情勢になっても同国の将来に不可欠なものになっている。

さて、リヤドであるが、冬場(11月中旬～3月末)がこれほど寒いとは思いませんでした。日中は30度を超えるものの朝晩は10度以下になることが多く、当初夏物しか衣服を持参しておらず、セーター他冬物衣料を地元で調達する羽目となり、自室では暖房を使用していた。カタールでの駐在経験もあり中東で暖房を使用するとは夢だにしていなかった。

日本人はリヤド、東部州アルコバール、ジッダの3都市に400人前後ずつ合計1,300人程度が在留しており、日本人会・日本大使館・日本人学校他で各種の行事が開催されており、私もソフトボール、フットサル、ゴルフ等の会に参加し交流を深めた。

少ないながら当校以外の地元サウジ人の方との交流もでき、大変有意義な時間を過ごせたことは中東協力センターにも感謝している。

注1) SEHAI詳細は<http://www.sehai.org>をご参照ください。注2) SJAHI : Saudi Japanese Automobile High Institute :
日本自動車工業会後援HIPF : Higher Institute for Plastics Fabrication :
三菱グループ後援

福島県産の米と桃を輸出する

はやし えいじ
林 英二 (元 太知ホールディングス)

2016年の秋、福島県での活動案件をABICからいただいた。60歳になったばかりで、次の機会を探していたところだった。福島県の出身であり、採用になれば生まれ育った地元への恩返しになるかも、と応募し幸いに採用となった。採用から1週間後には福島市の住人となり、県庁勤務開始である。

2016年11月に就任し、マレーシアへの県産米（こしひかり）の輸出を担当した。2011年の震災以降停止していた県産米の輸出を、2017年4月から再開。8月には、内堀知事によるトップセールスにより、年間100トンの輸出に合意。2018年の3月で100トン以上の輸出を達成する見通しとなった。桃は15トンのレベルだが、全日本のマレーシアへの輸出量の半分以上を福島県から輸出しているので、米も桃も日本産の輸出量でNo.1である。

2018年の目標は、インドネシアに桃10トンを輸出することだ。さらに、3年後には50トン輸出する計画である。インドネシアには一年半ほどだが駐在したので、懐かしさと親しみがある。2018年1月には、12年ぶりにジャカルタへ出張した。渋滞のひどさは相変わらずだった！ しかし、新都心計画と呼べるような、ジャカルタ郊外に新都市建設が進んでいるのは新鮮だった。毎年500万人の人口増加があり、現在2億6千万人。世界最大のモスラム人口国。東のパプアから、西のスマトラまで東西の幅は米国以上なので、国内の時差は3時間ある。今後が楽しみな巨大市場である。

ご存じの通り、福島県も2011年3月の震災と津波に恩恵された。そして、福島第一原子力発電所（通称フクイチ）の事故により、今も風評被害に苦しんでいる。事故以

前の県産品の主な輸出先は香港、台湾、韓国であった。残念ながら、この3カ国はいまだに福島県産品の輸入を禁止している。科学的根拠によるものではない。それ故に福島県は、タイ、マレーシア、インドネシアへの輸出に取り組んでいる。震災と津波、そして原発事故により国内も海外も壊滅的な状況に陥った県産品を2011年以前の数字に戻し、さらに大きく伸ばすことが、福島の復興を成し遂げるための大きな課題の一つなのだ。

さて、福島県には米の他にもおいしいものが多々ある。おいしいお米とおいしい水を使って醸造された日本酒は、その筆頭である。全国新酒鑑評会で福島県産酒30銘柄が入賞し、うち22銘柄が金賞を受賞。5年連続で、金賞受賞数No.1の実績である。米がうまい、水がうまい、そしてたゆまぬ努力による技術力が5年連続No.1の背景である。

「くだもの王国ふくしま！」である。桃、梨、ブドウ、柿、リンゴ、イチゴ。どれをとっても味は日本一だ。これらの県産品を世界に輸出し、福島の誇りを取り戻す！ 大変ではあるが、やりがいのある仕事である。

今の仕事で福島市に着任してまだ一年半にもならないが、この仕事をいただいたことにとっても感謝している。正直なところ仕事は大変。冬寒く、夏暑い気候はかなり厳しいものがある。しかし、この盆地気候がおいしい米と酒、果物と野菜を育てている。おかげで私の体重は増えるばかりである。

マレーシアの次に、2018年はインドネシアだが、さらにその次には中東がターゲットになるであろうと期待している。中東には23年間関わったので、中東への輸出をぜひとも実現したい。冠雪した吾妻小富士を県庁から見上げながら、やがて取り組むであろう、灼熱の国々に思いをさせる日々である。



マレーシアの福島県産米輸入業者を
福島市の桜の名所、花見山に案内して
(右が筆者)



シンガポール福島県人会会長とシンガポールの小売店にて
(左が筆者)

地方創生事業の一端を担うことの喜び

うえだ たかし
植田 俊 (元丸紅)

2018年1月30日付日本経済新聞によると、2017年の東京圏への人口流入は前年より1,911人増えて、11万9,779人に達したと報じられていた。この数字は総務省が発表した人口移動報告を引用したもののだが、22年連続の転入超となった。このまま東京一極集中の流れが進めば、地方にとって極めて深刻な社会問題となってくる。早急なる対応策が求められていたが、その最中に立ち上がったのが内閣府の主導する「プロフェッショナル人材戦略拠点事業」である。

内閣府は、東京を除く46道府県の地方自治体に事業を委託したが、実質的な制度設計者であった。当事業は、都市部で働く専門性の高い有為な人材を地方企業に導き入れ、「攻めの経営」を体現して企業の活性化を図るとともに成長、発展の一役を担い、地域雇用の創出に繋げようというのが趣旨でスタートした。具体的には、力量ある人材と地方の中小企業の経営者との転職を前提とした面談機会を設けようというのが私ども拠点の役割である。

時あたかも、ABICからマネージャー職公募の案内があり、応募したところ運よく和歌山県で採用が決まり、2015年12月より任務に就くことになった。前例がない事業ということもあって、不安感いっぱい船出を迎えたことが、昨日のこのように思い出される。試行錯誤の繰り返しで始まった仕事も、要領をつかみ始めると徐々に形が整いだし、約1年半の在任期間中に200社を超える経営者と面談するまでに至った。事業の性格上、転職に伴うため、中小企業の責任あるトップとの折衝が不可欠であるものの、そういった要職に就いている方々は、忙しさのあまり事業内容を説明するための面談時間がなかなか取れず、苦勞をした覚えがある。さらに、やっとの思いでとれたアポイントも、事業内容には容易にご理解を得られず、都市部からの転職者受け入れへの拒否反応、例えば外部人材の



キャリア・フェアでの講演風景

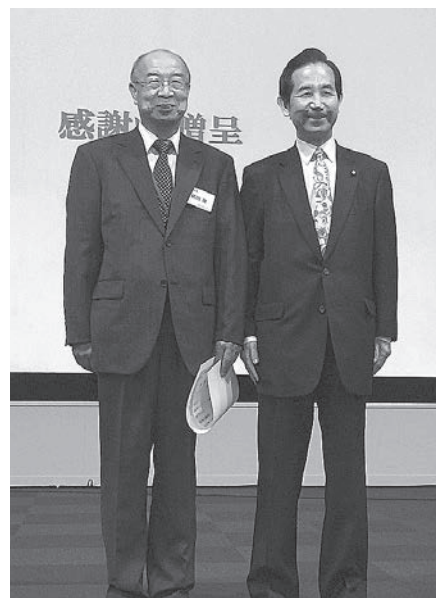
登用は社内では不要な不協和音を生じさせかねないとか、採用しても短期間で会社を辞められて、機密情報等を持ち逃げされはしないかなどの懸念が大勢を占めていた。

一方、人手不足に頭を痛める企業経営者からは、アルバイトでもよいから人を集めてほしいと、経営に携わって会社を改革していこうとする専門性の高い人材とはおよそ程遠い欠員補充の紹介依頼を受けたりしたこともあった。

今まで、製品やサービスの開発、取引等を対象としたビジネスを中心に活動してきた人間にとって、人を対象にした仕事は気持ちや心の問題も絡んでくるため、理屈通りには進まない局面も多々あり、初めて取り組む仕事は大変ハードルの高いものだった。ただ、中小企業の経営者との折衝業務は、型にはまった定型というものがなく、毎回、新鮮な気持ちで臨むことができたという印象が強く残っている。

国家事業である故に成果も当然のことながら期待されるが、本事業の成否は、企業トップの人材登用に対する覚悟や決意に大きく依存していると云っても過言ではない。私ども拠点の仕事は、経営者と問題解決に向き合っており、同じ目線で共に前進して行けるのかどうかということに尽きるといえよう。

幸いにも、和歌山県の初年度成約件数は全国レベルで上位にランクされ、内閣府からも一定の評価をいただき、退任時に感謝状まで頂戴する栄誉に浴した。とりわけ地域の中小企業の方々が満足されて、成約に至った時の達成感はこの上ない喜びであり、感謝の言葉以外見当たらない思いである。



山本幸三内閣府特命担当大臣(地方創生、規制改革)(当時)よりの感謝状贈呈式(左が筆者)

教育

定住外国人に日本語教え、「心の債務」減らし

こざと ひとし
小里 仁 (元 朝日新聞社)

「リカルドさんの国では車の免許を取るのにどのくらいかかりますか」「1ヵ月ぐらいかかります」「カレンさんの国では…」「3時間です！」

ホワイトボードには縦に横書きで「車の免許を取ります」「パスポートを取ります」「結婚式をします」と書いてある。私はその横につくった国ごとのマス目に、発表された数字を書き込んでいく。ウクライナ、米国、ブラジル、メキシコ、パキスタン、インド、フィリピン、ベトナム、中国。ベトナムではハノイとホーチミンでパスポート申請手数料が異なるということも分かり、受講生に驚きが広がった。

2017年12月に始まった海老名市文化会館での「外国人就労・定着支援研修」午前コースの1コマ。この日は「～するのに、どのくらい（時間・金）かかります」がテーマだった。毎日3時間、9カ国の14人が仲良く机を並べ、初級後半レベル（L2）の日本語の習得に励んでいる。毎回「美容院・飲食店」「電話」「職場」など場面を設定、「美容院で希望が言える」「欲しいものを注文できる」「理由を述べて断ることができる」など目標を決めて、習った事柄を日常生活に生かせるよう、カリキュラムがつけられている。

この事業は厚生労働省所管で、18都府県で行われており、厚生労働省の資料では受講予定者は4,250人となっている。介護などの専門コース、日本語能力試験N2・N3合格を目指すコース、基本コース（L1-3）に分かれる。履修時間は各コースとも120時間。就職を前提にした、職場でのコミュニケーション能力の向上に重点が置かれているため、日本語の文型の学習にとどまらず、履歴書の書き方、

面接での受け答えのほか、職場見学や見学後の礼状書きも授業に組み込まれている。

移民の受け入れに消極的な政府は少子高齢化に伴う国内の労働力不足を補うために、日系人を対象に2009年度に「日系人就業準備研修」を始めた。2015年度にその枠を「定住外国人」に広げた。2017年度には学校法人・大原学園が受託。ABICの紹介を受け私も仲間に入れていただき、大原学園と日本語講師の契約を交わして2017年秋から、神奈川県下の教室で日本語を教えている。

受講生の年齢、在日年数はまちまちで、興味の対象も人それぞれ。宗教も政治体制も母語も異なる国々からやってきた人たちに、どう楽しく学んでもらえるか。ぴったりくるイラストはないか、気の利いたモデル会話がつかれないか、毎回毎回、授業の準備をしながら無い知恵を絞る。中南米や欧州で勤務した時の失敗談や困ったことなどを話の糸口にすることも少なくない。

各地を飛び回っていたころ、言葉が不自由な故に、生活習慣の違いの故に、行く先々で数知れない方々に助けってもらった。定年後に日本語教師を始めたのも、日本語の壁に苦労している人たちのささやかなお手伝いができると思ったからだ。私の心の中に蓄積された多量の累積債務の、せめて利子分だけでも返済したいとの気持ちがある。それがどこまで実現したかはわからない。それは「債権者」が決めることだ。

「先生、階段を一つ上がったみたいです」。2017年末、L3（中級）で学んでいたペルー人女性が笑顔で話しかけてきた。共に喜ぶ。こんな時間を持てることがありがたい。



海老名市文化会館での授業風景

東洋大学国際学部 グローバル・イノベーション学科講座

なだち ひろきち
名達 博吉 (元 伊藤忠商事)

2017年の春、「文科省のSuper Global University指定を受けた東洋大学がABICによる英語のビジネス講座を開設するが、参加できるか」との問い合わせがあった。当時のABIC齊藤秀久理事長と東洋大学の新設学科準備担当であった佐藤節也教授との対談を機にABICが受託した講座だそうだ。「東洋大学・・・ああ、日本人初の9秒台を狙っている桐生祥秀の大学か」と思うと同時に、「ええーっ、本当にSuper Global Universityに！」と驚いた。

私は母校のOB会役員なので、その文科省指定がいかに価値あるかすぐ理解できた。名だたる多くの大学が喉から手が出るほど欲しい、いわば大変な「勲章」である。ABIC講師陣は、齊藤守氏、鶴見邦夫氏、松岡満典氏、百田功氏、河崎隆夫氏、久留さと子氏、といずれも経験豊富な実力講師陣であり、第1回講師打ち合わせ会で、私は気が引き締まる思いがした。

「Multinational Corporations and the Global System」のテーマで、「グローバルビジネス世界とはどんな所か、その中で生き残るために何が必要か」を教えることにした。

私は、商社で34年間自動車部門を担当し、その後自動車会社に勤めた経験から「Automobile Industry」を担当。「ハイ・リスクで典型的なグローバル産業である自動車業界において、日本企業はどのように主要プレーヤーになったのか、その秘密は一体何か？」をテーマに、12月12日と19日の2コマを担当した。日本人4人、留学生16人と手頃な人数。米国、豪州、スペイン、イタリア、台湾など多彩な国からの留学生が混在して活気ある授業だった。

1コマ目は、なぜ米国で自動車産業が巨大産業に発展したのかという、自動車産業百年の歴史の振り返りから始め

た。後半は、戦後一度消滅した日本自動車産業が抱えていた、①外貨不足、②12社の過当競争、③単純労働を拒否する組合、④高いガソリン価格、⑤深刻な公害問題について説明し、「これら五つの問題の存在そのものが、その後の日本自動車産業を強くした秘密である」という逆説的な結論を、具体的な例を挙げながら解説した。

2コマ目前半は、「The marketing strategies that saved a Japanese auto company from bankruptcy」というタイトルでのケース・スタディー。私が10年間在籍したいすゞ自動車が倒産寸前から立ち直り、世界トラック主要企業の一員になった過程を題材に、学生に「あなたが当時のいすゞ従業員だったら、どんなマーケティング戦略を発想したか」を問い掛け、議論した。その中で「客の欲しがるものを売るな！ 客に役立つものを売れ」という近江商人哲学を紹介した際には、「納得いかない。客の欲しがるものを開発し販売するのがマーケティングではないか」との異論が出て、議論が大いに盛り上がった。2コマ目後半は、電気自動車、自動運転、シェアビジネスが急速に進む自動車産業の将来について議論した。

今回の東洋大学の講座で実感したのは、大学側の積極的な取り組み姿勢だった。学部の先生たちが講師との打ち合わせや懇親会に出席し、国際学部の目標やABIC講座への希望などを熱く語られた。中でも講座担当の佐藤教授は、講座の全ての講義に熱心に耳を傾けておられたのが印象的で、他の大学では見られない光景であった。

桐生が9秒台を実現し、新年の箱根マラソンで東洋大学が往路優勝、総合2位になった時、「これが、大学の勢いというものか！」と、私は大いに納得した。



東洋大学の講師の皆さんと
(左から久留氏、河崎氏、筆者、松岡氏、佐藤教授、鶴見氏、齊藤氏、百田氏)

教育

2020年オリンピック・パラリンピックを迎える小学生

くどう あきら
工藤 章 (元三菱商事)

2017年12月7日、国分寺市立第十小学校の担当教師が、騒然とする80人ほどの4年生を一瞬で授業モードに変えた後、私は教壇に立った。全生徒の強い視線が一齐に向けられ（大学とは全く違う）、今回は初めての趣向も伴うので緊張した。「実は、私の孫を連れてきています。質問を皆さんから受ける時まで、本棚の後ろで待ってもらっています」とあいさつすると、「幾つなのかな、かわいいかな、早く会いたい」との大きな反響でざわついたが、30分でパワーポイント（PPT）によるプレゼンを終わらさべく急いでタイトル「パラグアイを知ろう」の説明を始めた。

「パラグアイとはどんな国か、生徒たちの関心と理解を深めてもらう」という指示を受けた時には、ブラジル、メキシコなどのもっと大きな国について紹介したいが、なぜパラグアイかと疑問に思った。しかしながら、ABICコーディネーターの宮内雄史氏から「東京都教育委員会では、オリンピック・パラリンピックに関してさまざまな角度から学ぶ教育事業を推進しており、その一環として生徒が国際理解を深めるため、外部講師を招き世界中の個々の国についての授業を行うプログラムがある。ABICも講師紹介組織として登録しており、学校からの要請を受けて講師紹介するもので、今回はパラグアイに絞って説明してほしい」との説明で合点した。そこで、人口が千葉県より少し多い小国パラグアイだけを紹介するには10分もあれば済むので、同国の小学校と小学生の事情を詳しく説明することにした。現地校に子息を通わせている方に情報提供の協力を得て作成した原稿を持って、事前に先生のアドバイスを求めた。そこで指摘を受けたのは、コロンブス新大陸発見か

ら今日に至るパラグアイの歴史を全て削除することだった。小学校4年生では歴史の概念を学習していないとの説明があり納得した。

30分のPPTによるプレゼンテーションを終えた。次に残された15分の質疑応答の時間に入った。「約束した通り、孫を連れてきます」と言って本棚の裏に入り、腹話術の相棒「かず君」（小学校2年生）と一緒に戻った。事前に説明していなかったこともあり生徒たちはびっくりし興奮する中、相棒が自己紹介し最初の質問をした。その後は、相棒が教室のムードを和らげてくれたこともあり、生徒たちから次々と質問が寄せられた。答えに窮すると、相棒が「お爺さんは知らないけど、僕はこう思うよ」といったやりとりも加えて、授業を終えた。学校のブログに、「22年間南米に住んでおられた方に来ていただき、パラグアイの位置や、子供たちの様子など楽しく、分かりやすく教えていただきました。最後は、子供たちの質問に対し、腹話術を用いて楽しく答えてくださいました」と記載されている。

日本の国際化に関わるABICの活動の中で、オリンピック・パラリンピック開催準備に貢献ができたことは大変うれしく、さらに腹話術の出番を得たことは非常にありがたかった。笑いを中心に腹話術で高齢者施設、養護施設などでボランティアを始めて約1年半が過ぎたが、若い世代に希望を与えるツールとしても生かせるとの自信を得たことは大きな喜びである。このような機会をつくってくれた国分寺市立第十小学校とABICに感謝するとともに、年齢制限で大学の講義の機会がなくなったが、引き続きABICの教育分野での活動に参加したいと願っている。



9年後の戸惑い

寺田 好純 (元 松下電器産業)

私がABIC派遣講師として、初めて大学の教壇に立ったのは2009年5月だった。学生たちの前で日本の家電事業について、実体験を交えながら話を始めたその日の風景を鮮明に憶えている。

家電事業では発明やイノベーションは欠かせないトピックである。19世紀に始まった産業革命を軸に数々の大発明がなされたが、なかでも家電のスター商品である家庭用TVの歴史を語る際は、私はいつもマルコーニによる無線電信の実用化を起点にしていた。

信号を発信する英マルコーニ本社には大西洋を挟んだ新大陸側に信号の受信所が必要で、そこで米国法人アメリカン・マルコーニ社が誕生した。有名なRCA (Radio Corporation of America) 社の前身である。同社の家電事業への貢献は現在でも他を圧倒している。単純な無線信号を進化させて世界初の全米ネットワーク放送局NBCとラジオ受信機を世に出し、次に画像信号を加えたTV放送 (NTSC方式) を開発、さらにはカラー TV放送方式までの提案で、今日の世界の家電事業の基礎を作り上げた企業である。

2009年の学生たちはTV受像機がつい最近まで奥の深いブラウン管式だったと説明すると、よく理解してうなずいてくれていた。アナログ放送から地上デジタルTV放送に移行したのが、デジアナ変換の移行期間を加えて2015年3月なので、ブラウン管TVもまだ現役だったのである。しかしその9年後の2018年の今は、様相がガラリと変化している。ブラウン管式TV受像機など、見たことも触ったこともない世代が出てきているからである。

現代のデジタルTVはブラウン管TVの単なる改良版ではない。ここに決定的な質的変化が生じている。ブラウン管TVとはTV信号の受信機能だけの受像機器だったが、現代

のデジタルTVはディスプレイ付きコンピュータの一種で、複合機能を有した情報機器に変貌しているからである。

先日のTV番組では若手のタレントが、年長の出演者が口にした「電話のダイヤルを回す」という表現にげんな顔を見せていた。「それはなんのこと？」彼らには電話機はボタン操作するもので、ダイヤルの役割など想像の外にあったからだ。電話機もTVに似て、受発信の単一電話機能から、現代のスマホの複合機能を駆使する情報端末に変化していたのである。

世代が変われば認識ギャップが生まれる、ジェネレーション・ギャップは周知のことだ。理解し記憶すべき知識と情報がどんどん圧縮されて、エッセンスだけを伝えていくことになるのはやむを得ない。しかし驚がくするのは、それが起こる時間軸が極端に短くなっていることだ。これまで時間をかけて徐々に進化・発展を遂げていた時代では、知識伝達に無理がなかった。しかしデジタル革命以来、イノベーションの速度があまりに速く、また技術の質的断絶も多く、ついには教育の場で語り手と聴き手の間の理解を困難にする巨大な溝を作り出し、その溝幅が年々大きく拡大を続けている。

今ではエレクトロニクス時代を開いた20世紀最大の発明品のトランジスタすら、その前身の真空管の実物を見せながら説明しても、聴き手になんら感動を与えない。聴き手の手元のPCは、それに電子回路までつけて50億個もの素子として埋め込まれているマイクロプロセッサが動かしていると説明しても、教室の空気は静寂そのものだ。感動も驚がくもない。

歴史の厚みが伝えきれない時代になった。初講義から9年経過した時点で教室で当惑する講師が私の姿だが、皆さんはどう取り組まれているだろうか？



講義風景

留学生支援

留学生支援活動から日本語教師養成講座へ 交流館の活動に心が通う連携を！

さとう ひさお (元東レ)
佐藤 久夫

東京国際交流館に隣接する日本科学未来館の客員研究員として、生命科学の基礎研究である「ミトコンドリアの生合成プロジェクト」チームに呼ばれたのは2016年10月のことだった。40年近くバイオ医薬の国際共同開発や宇宙開発事業団での宇宙生命科学のプロジェクトをNASAと共同で実施していた経験が、まさか「留学生の育児・健康相談のサポート」にお役に立つとは思わないまま、通訳として交流館のボランティアチームに加えていただいた。

育児・健康相談、入園支援サポート

交流館では、留学先の日本の大学の支援対象となりにくい留学生家族に向けて、管轄の保健所から助産師、保健師など専門スタッフ3-4人を招いて隔月で健康サポートが行われている。ほとんどの家族が英語を理解するのでメディカルイングリッシュを知っていたことが助けになった。

子どもが幼稚園の年齢であれば、近隣の公立幼稚園に随時入園できないか問い合わせをして、定員に問題なければ受け入れてもらえるように支援することもあった。園長面接に通訳として同席し、了解が得られればカバン、帽子から一連の入園前の準備を同じ日に行う。お互いに疑問点を解消しながら入園前から通園開始までを支援する。その中には園指定医の入園前健診も含まれる。雨の中、内科、耳鼻科、眼科、歯科を身重の母親と対象園児を連れて一緒に1日がかりで回ったこともあった。

日本で出産を迎えた ナイジェリアの 夫妻

2018年1月に日本で男児を出産したナイジェリアの夫妻への支援を行った。出産前に加えて出産後1ヵ月頃に自宅へ助産師が個別相談に訪れ、その際2回とも通訳支援に同行した。助産師は、異国での出産で相



助産師の健診

談する家族も近くにおらずに抱えている不安の一つ一つを解きほぐすようにアドバイスしていた。ご夫妻が安心され可愛い赤ちゃんが微笑むその現場に同席できたことはボランティア冥利につけるものだった。

日本語教師養成講座

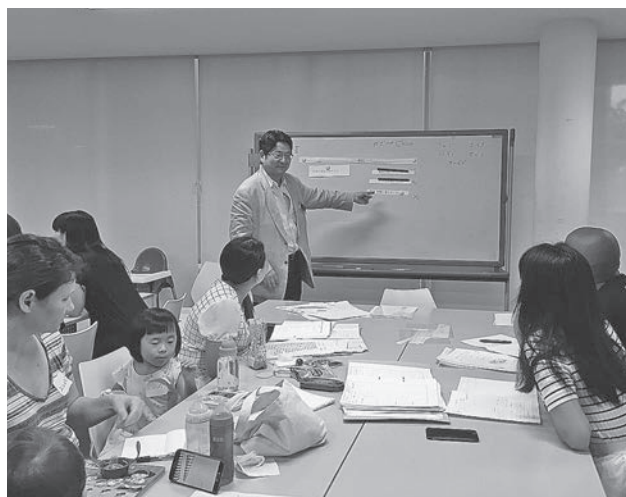
このナイジェリアの母親とは初対面ではなかった。実は育児支援を指導しているABICコーディネーターの田中武夫氏から、日本語教師養成講座への参加をアドバイスされ、2017年4月から6ヵ月通っている中に交流館で実習が組み込まれていた。そこで生徒役で教育実習に加わっていたのがまさにこの方だった。

多くの留学生家族が日本で生活してみると、日本語しか通じない局面が多数あり、改めて日本語の必要性を来日してから痛感すると話されている。

日本語広場から交流館の活動へ広がりをも！

交流館で展開している「日本語広場」に参加する留学生は多く、そこでの交流を核として、留学生の家族の健康に関して（出産・育児・健康相談、健診など）の支援活動をボランティアチームの一員として行っている。

同僚であるお隣の未来館の研究者の中には、空手やお花などの「日本文化教室」のボランティアを前から行っている人もいる。近隣の施設同士の交流を深め活動の理解を得ながら、交流館のメンバーとも個人名で呼び合える心の通った支援をこれからも拡大して行きたい。



日本語教師養成講座での実習（東京国際交流館 日本語広場）

留学生支援

東京国際交流館での活動

2017年秋の新入館生歓迎バザー

恒例の新入館生歓迎バザーは東京と兵庫が1週間の間隔を置き実施していたが、都合により2017年度は兵庫が10月22日（日）、東京は11月25日（土）と26日（日）にそれぞれ開催された。このバザーはABICが行う留学生支援活動の一環として、日本学生支援機構の要請に基づきおのおの年2回実施している。

バザーの実施回数は現在までほぼ40回となるが、毎回ABIC支援企業ならびに個人会員の方々からの商品の提供や東西国際交流館の協力、両国際交流館在住学生の参画により実現している。ご支援くださった皆さまには厚く御礼申し上げたい。

ABICはバザー以外でも、日本語広場や文化教室および

留学生家族の入園・通学・通院支援も行っており、さらに充実させていく予定である。

東京国際交流館の今秋のバザー状況は以下の通りである。

初日の25日は寒い日であったが開始時間前の10時ごろから会場の交流館A棟を取り囲む列ができたため、商品の搬入と展示を急ぎ予定より1時間早く11時に開場した。

商品として一番人気のあったのは食器、鍋（IH対応）、ジューサー、ポット、炊飯器などの炊事用品であった。入場者数は306人、寄贈いただいた箱数は87箱、売上高は21万円で前回（2017年5月）比120%であった。

（留学生支援担当コーディネーター）



事務局だより

ABIC関西地区会員懇親会を開催

2018年3月6日（火）18時より、ホテルグランヴィア大阪「孔雀の間」において関西地区会員懇親会を開催しました。関西地区を中心とする約60人の参加者を得て、岩城理事長のあいさつ、河津日本貿易会専務理事の乾杯発声の後、参加者の活発な交流が行われ、懇親を深めました。



岩城理事長あいさつ



河津日本貿易会専務理事
乾杯発声

その他

香港大学・香港科技大学の 日本トップ企業視察ツアー帯同

ありさか あきら
有坂 亨 (元 パンダイ)

2018年1月、アジアのトップ大学生による日本のトップ企業の視察研修に、日本の学生ボランティアと共に通訳や世話役として帯同参加した。香港大学・香港科技大学の2校で38人の学生は互いに異なる専攻や学年が混在する初顔同士。香港が1997年に中国に返還された後に生まれた世代の若者たちは、広東語・英語・北京語をこなし、日本語も各自が学校や独学等のいろいろな方法で身に付けて移動中もたくましくコミュニケーションを取ろうと活発だった。日本に滞在する2週間で日本の企業16社と接し、企業から提供されるワークショップや事前に各社からいただいた課題への提案プレゼン等の学習型研修に、毎日討議を重ねて、日本のビジネス社会や街角体験をした。参加者は皆日本での就職を優先度高く意識しており、今回訪問した日本企業の海外人材受け入れ体制について鋭い質問をしていた。日程の最後には香港の大学のキャリアセンターからも先生が加わり、最終日には成果報告会。パワーポイント(PPT)でのプレゼンに加え、映像を20分程度にまとめたビデオの編集も移動しながら仕上げた者もあり、参加者全員で感動を共有した。

私にとっても彼らを通じた目線から見た日本に幾つか発見があった。学生の宿泊は浅草のドミトリー形式のホステル。雷門から周辺一帯は外国人客が多く、各店では英語表記やメニューを用意した国際対応だった。一方で銀座線沿線の虎ノ門や新橋は国際化が遅れていた。学生の中には個人旅行で日本慣れしている者もあり、九段下の武道館や水道橋の東京ドームに声優やジャニーズのコンサートに來たことがあったり、自由時間を使って恋の成就のお守りを神社に一人で買いに行く。歴史好きな子は、靖国神社に行く

などしていた。

日本語の発音が良い子に聞くと、先生に習わずにスマホアプリで独学したという。人から習った人たちよりもきれいな言葉遣いだった。一方でラーメンを食べる時に、「音を出して食べないといけないんですか？」と肺を膨らませる子がいたり、彼らが頼りにする情報源に偏りがあるようだ。

幼少期から常にトップ2割以内にいて上位で生き残ってきたエリートたちだが、好奇心スイッチを全開にして日本から何かをつかもうとしていた。小さな事でも観察して「WHY？」と質問する習慣が身に付いている様子は、日本人には脅威だ。グループで移動するときに後部で全体を気遣う胸板の厚い子はラガーマンで、日本社会でも即戦力になりそうな人間力の持ち主だった。

ある企業ではホテルの新規開業企画を提案プレゼン。この企業では海外各地で現地雇用しているものの、あまり提案がないという。日本の会社風土が意見を言いにくくしているのか？ まだ学生の彼らには新しい意見を発する元気があるようだった。

これからのグローバル社会やビジネスを担う海外と日本の若者同士の良い距離感に安心する一方、片や日本の中堅企業や一般社会人がどれだけ対応できるか不安な面を痛感した。

個人的には、社会人1年目の1982年からの香港駐在を皮切りに3度で通算18年のアジア勤務を通じて出会った、今回で一緒にした若者たちの親や祖父母世代の香港やアジアの方々への恩返しとして、今後もこのような橋渡し役をライフワークにしたいと強く思う時間であった。



総合社でのワークショップ発表



地震に強い家体験（前列左端が筆者）

会員の種類

種類	内容	年会費
正会員	センターの活動を推進する個人、法人および団体。 (理事会の承認を得て入会)	法人および団体 1口 50,000円
		個人 1口 10,000円
賛助会員	センターの趣旨に賛同し、会費を納める活動会員、ならびに個人、法人および団体。	法人および団体 1口 10,000円
		個人 1口 5,000円
活動会員	センターに登録し、センターの事業に参加しようとする個人。	不要 — —

(2018年2月末現在)

正会員

団体・法人（16社、1団体）〈社名五十音順〉

〈10口〉（一社）日本貿易会 伊藤忠商事(株) 住友商事(株) 双日(株) 豊田通商(株) 丸紅(株) 三井物産(株) 三菱商事(株)
 〈4口〉 (株)日立ハイテクノロジーズ 〈2口〉 稲畑産業(株) 岩谷産業(株) 長瀬産業(株) 阪和興業(株)
 〈1口〉 兼松(株) 興和(株) JFE商事(株) 蝶理(株)

個人（12名）〈入会順・敬称略〉

池上 久雄 寺島 実郎 小島 順彦 宮原 賢次 吉田 靖男 岡 素之
 佐々木 幹夫 勝俣 宣夫 〈3口〉 小林 栄三 槍田 松瑩 〈3口〉 市村 泰男 齊藤 秀久

賛助会員

法人（3社）〈社名五十音順〉

(有)イーコマース研究所 (株)エックス・エヌ NPO法人賛否両論 〈3口〉

個人（317名）

下記は2017年11月以降にお申し込みいただいた方です。ご協力に深謝申し上げます。(敬称略・氏名五十音順)
 〈1口〉 竹田 真奈美

活動会員 2,829名

賛助会員入会のお願い

ABICの活動にご賛同いただき、資金的な援助をしていただける活動会員およびその他の個人の方、
 ならびに法人および団体の皆様のご入会をお願い申し上げます。

会員入会のお問い合わせ・連絡先

特定非営利活動法人 国際社会貢献センター (ABIC)

〒105-6123 東京都港区浜松町2-4-1 世界貿易センタービル23F

TEL : 03-3435-5973 FAX : 03-3435-5970 E-mail : mail@abic.or.jp